

マルコの福音書 10 章 46 節-52 節

「神の選び」

北海道聖書学院本科 3 年 平吹光太

導入：

一番初めに教会に来た時のことを覚えていますか？ どういう理由で最初、教会に来られたか？ 家族がクリスチャンだから、クリスチャンの友人に誘われたから、教会案内を見て来たとか、理由は人それぞれ。結局、教会に来たきっかけは偶然？ 本当に偶然に教会に来た？ 教会に偶然来たなら、私たちは偶然に救われた？

今日の箇所を一言で要約すると、バルティマイという盲人がイエス様に目を癒して頂き、そしてイエス様に歩いて行くという場面。

時代背景：エリコという町はエルサレムから東へ約 30 キロに所在するオアシスの町であり、栄えていた町。そのような町であったため、裕福な人がいて、そして、そこで物乞いをする者がいた。今で言うとバンコクや、ソウル、大阪や東京などの町で、実際に私が行った時には物乞いをしている人がいた。そのような場所でバルティマイという盲人が道端で物乞いをしていることが書かれている。ずっと座っていたとありますが、たまたま居たのではなく、ずっと前からそこに居た。その当時、古代から一般的にそのような盲人の障害は奇跡による癒しでしか癒されず、物乞いを受けるしかない絶望的な希望のない人生と考えられてた。そのところに、イエス様と弟子達と多くの群衆が通ったと書かれてる。そしてこの時が、イエス様がエリコを通る最後の機会で、この後にエルサレムへと入り、十字架への道へとつながる。

1. 神様は私たちに本当に必要なものを見極め、求め続けていくようにと願っておられる

47 節で分かることは、イエス様の呼び名の違い。多くの群衆はナザレ（生まれ故郷）のイエスと呼ぶ。一方、バルティマイは「ダビデの子イエス様」と呼ぶ。ダビデの子とは、バビロン捕囚以後、メシヤの来臨の希望を強く抱いたイスラエル民族は、メシヤ（救世主）を、ダビデの子孫としてダビデの王国を再現する理想の王と考える呼び方。

この違いは何か？ 群衆は、イエス様をどこかの町の一人のイエスとしか捉えていないのに対して、バルティマイは、イエス様がメシヤであることを告白している。バルティマイはこの方こそ自分を救ってくださるお方であると分かっていた。ではなぜバルティマイが「ダビデの子イエス様」と叫ぶことができたか？ それは物乞いであるバルティマイが人通りの多い場所にずっといたことが考えられ、イエス様がなされた数々の奇跡や、旧約聖書でイエス様がダビデの子であり、ダビデの子孫から救い主がお生まれになることの情報を、その行き交う人々の道端で自然とそのような話を耳にしていたため。これらのような情報が人々を通して、人通りの多い場所にずっと座っていたバルティマイの耳に入っていたから、「ダビデの子イエス様、わたしをあわれんでください」と叫ぶことができた。また、数少ない御言葉を聞く機会を逃さずに心に留めていたからこそ、イエス様にあわれみを請う告白ができ、イエス様に会うことができた。

「多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめたが、「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と、ますます叫んだ。」(48 節)とありますが、まず「たしなめた」というのは、続けざまに叱りつけるという意味。また、「あわれんでください」という物乞いの一般的な主張は、お金を恵んでもらうことを意味し、群衆はまた物乞いがお金を欲していると考え、叱りつけ黙らせようとしていた。バルティマイは本当に大切なものに心を留めていたが、周りから止められている。つまり、この世の中には、多くの人達の異なる考えや教えがあり、その沢山の情報のなかで生きており、何が本当で真実なことなのかを惑わしてくる力がある。そのため、本当に大切なものに心を留めていくことが必要。どのようにして大切なものを私たちは心に留めることができるか？ 私たち人間にとって最も大切なお方である神様を知る。神様を知るために、日々のデボーション、神様と一対一の交わりをする。バルティマイは他のなにもものでもなく、イエス様がダビデの子であることや神様の言葉をいつも心の中で思い巡らせていたから、周りからどんなことを言われても神様に目を留めることができた。私たちも、いつも神様に目を留めて、神様との関係を第一に求めるならば、家族や、親戚、職場や学校で神様を信じることを馬鹿にされたり、またはもっと他に大切なことがあるのではないかと警告されたとしても、最も大切な神様との関係、交わりを一

番に選び続けることができる。*＜証＞

2. 神様はどんな者に対しても、その人の信仰に応じて答えて下さる

「イエスは立ち止まって「あの人を呼んで来なさい」(49節)。イエス様がご自分を本当に求めている人に対して関心を寄せた故の行動。群衆はバルティマイを呼んで、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたを呼んでおられる」と言った。群衆が心配しないで良いというのは、バルティマイがお金を請うことの行為に対してイエス様は怒らないからという意味であり、また低い身分の者に対してイエス様が目を留め、時間を取っていることへの嫉妬心で満ちていたため。

ここで教えられることは、47-48節のバルティマイの「あわれんでください」という彼の信仰に応じてイエス様は答えてくださったということ。どんなに低い身分で社会的にも見放されている人でも、また、どんな病気や障害があっても教会にも行けなかったり、聖書の言葉を読んだり、牧師の説教を聞く事ができないような人でも、イエス様はその人の心に目を留め、信仰に応じて答えて下さる。私たちはどうか？自分の身分や健康状態、今の状況に絶望していないか？ * <証>

「上着を脱ぎ捨て」(50節)は、この当時の物乞いの人にとって、自分の大切なもの全てを捨てる事に値する行為。喜びに溢れイエス様の元へ。バルティマイは、初めてのことからイエス様を信じたらどうなるか分からないが、それでも後ろを振り向かず、イエス様の元に飛び込んだ。

3. 神様はあなたを招いておられ、その招きに答えることを待ち望んでおられる

「わたしに何をしてほしいのですか。」(51節)というイエス様の言葉は、バルティマイの願っている必要とその意思を確認し、言葉にしてほしかったため。意思表示を引き出すための質問。

バルティマイはそれに答えて、「先生、目が見えるようにしてください。」(51節)と言っている。バルティマイが使っている「先生」はマグダラのマリヤが、復活のイエス様に呼びかけている時のみに使われており、我が主という信仰告白とも捉える事ができる。「目が見えるようにしてください」というバルティマイの言葉は、意思表示。目を癒す事のできる主、唯一の神様に、この絶望的な状況から救い出して頂きたいという告白。

イエス様は「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」(52節)と言われ、「すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。」とある。バルティマイの信仰が素晴らしく、彼が熱心に求めることを一生懸命に努力したから目が見えるようになった。つまり救われた？ 聖書はそのようには教えていない。

この「あなたの信仰があなたを救いました」の「救いました」と言う言葉は、完了形で書かれており、バルティマイはこのことを言われる以前に既に救われていることをイエス様は伝えている。47節でバルティマイがダビデの子イエス様「あわれんでください」と告白した時点で彼は救われている。バルティマイが声をあげる前から、イエス様は彼の信仰を見ていた。あなたが産まれる前から、神様はあなたを選び出して下さり、あなたが声を出すことを待ち望んでいた。すなわち、私たちの信仰が素晴らしいからでもなく、私たちの努力によることでもない。あわれみ深い神様であるゆえに、救われるに程遠い者を、ただ一方的な神様の恵みによって選び、救われた。私たちが数ある多くの神々から神様を選んだのではなく、神様が私たちに選んでくださった。

神様の選びは、神様の子として下さること。聖である聖い神様の子になるには、罪深い私が清くされなければならない。そのために何が必要？神様の命じられた律法を守り行うこと？それを全て守り行うことができれば救われる。聖書のどの人物も守れていない。今の時代に至るまで、どんな偉大な人物も完全にできた人はいない。

私たちは良い行ないをしたいと願っても、清くなりたいと願っても自分の力ではできず、むしろ自分の力や他の何かに頼る。それを聖書では、罪と示す。律法を守り行うことができないことを知る事は神様の聖さと私たちの罪を示す。

バルティマイとの後にイエス様は、自分の力ではどうすることもできない私たちのために十字架にかかれ、黄泉に下り、そして復活された。このことを信じるだけで絶望の人生ではなく、永遠に神様と共に生きることができることを約束された。

結論：救いはただあわれみによる。バルティマイは神様にその一点、あわれみを叫び求めた。彼はイエス様だけが自分を癒し、救いを与えて下さる方であることを知り、自分は滅びにいく絶望的な者で、あわれみを請う以外に道はないことを知っていたから叫び求めた。

今日、神様は、私たち一人ひとりに語っておられる。沢山の異なった思想や情報に生きているけれども、何が真理であるのか、私の命を永遠に支配される方は誰なのか、そして、神様はあなたを永遠の救いに招いておら

れ、身分や絶望的な状態・状況に関わらず、信仰に応じて答えて下さる。神様はその招きに今、この時、この瞬間に答えることを待ち望んでいる。

今、絶望の中において、自分ではどうすることもできないこの私を助け、あわれみ、救い出して下さいと叫び求めるなら、神様は必ずあなたに答えて下さる。なぜなら、神様があなたをすでに選んでくださっているから。この恵みを受け取り、主と共に歩み、喜んで仕えていくものとされよう。

「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」(ヨハネ 15:16)